

令和2年度 第2回 特別史跡熊本城跡保存活用委員会 議事録

日時：令和2年(2020)11月11日(水) 14:00~15:30

会場：熊本市役所 14階大ホール

出席者：伊東(龍)委員長、河島委員、坂本委員、永田委員、西嶋委員、服部委員、

廣瀬委員、松田委員、毛利委員、山尾委員、山田委員

熊本県文化課：帆足主幹・能登原参事・木村参事

欠席者：伊東(麗)委員

事務局：文化市民局：井上局長

文化財課：北野課長

観光政策課：住谷課長

熊本城総合事務所：網田所長、津曲首席、濱田副所長、岩山副所長、古賀技術主幹、

遠山主査

熊本城調査研究センター：渡辺所長、坂本副所長、美濃口主幹、金田主査、

林田主査

他

次第1	開会 局長挨拶
井上局長	当委員会につきましては、本来は4月に開催すべきであった第1回をコロナ禍の影響により7月に開催し、今回は2回目ということになります。伊東委員長をはじめ、皆様方には何かとお忙しい中をお集まりいただき、ありがとうございます。本日は次第にもありますように3件の報告を行います。活発な、そして忌憚のないご意見をいただきまして、熊本城跡の保存・活用に資するようご協力をお願いいたします。簡単ではございますが、ご挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

次第2	前回委員会の主な意見
伊東(龍)委員長	委員の先生方、熊本城のためにいつものようにご意見を頂戴できればと思うのでよろしく願いしたい。それでは、次第2「前回委員会の主な意見」を事務局から説明をお願いする。
事務局	(資料1説明)
伊東(龍)委員長	資料1の報告があった。委員から質問・意見等があれば発言をお願いする。
廣瀬委員	前回、意見した「熊本城特別公開の実施状況について」のところで、波奈之丸について博物館に移設して展示されることについては把握しており、ビデオを拝見して良く理解できた。天守閣ではなく博物館で管理することはとても良いことだと思う。しかし、前回言いたかったことは、特別見学通路だけではなく、波奈之丸が展示されている博

	<p>博物館とのセット券、わくわく座とのセット券での販売もされているが、アピールが若干不足していると感じたという点。前回の委員会でも回遊性の話が出たので、可能であればもっとアピールをしてもらいたい。先日、天守閣前でボランティアの定点ガイドをしていたところ、県外からの観光客が多く訪れていた。博物館に波奈之丸の展示があると話したところ、「最初にそのことを聞いていれば、博物館とのセット券を買ったのに」という話を伺った。チケット販売所などに広告なりポスターなり、何かしら案内掲示があれば、せっかくりニューアルした博物館にも訪れてもらえると思う。もう一つ、翻訳の件についてだが、私が確認したところ本丸の「御祈禱所」の看板がローマ字表記のままであった。確認をお願いする。</p>
伊東(龍)委員長	今の発言について事務局の方から何かあるか。
事務局	博物館のPRについては少し工夫を凝らしてしていかなければと思う。翻訳のご指摘のところは、訂正していきたい。
河島委員	<p>どこで発言すればよいのか分からないので、ここで城内の樹木に関する意見を言いたい。通町筋の方から眺めると熊本城が正面に見えるが、樹木が生い茂っており、石垣や櫓はほとんど見えない状態になっている。観光客が来た際に、「ああ、お城だな」というのが理解できるように樹木を剪定し、石垣や櫓が見えるようにした方が良い。さらに言えば、西側の新幹線側から藤崎台の先にわずかに天守閣が見える。櫓を建てろとまでは言わないが、知らない人でもお城がこんなに近くにあると一目でわかる方法はないものか。少しでも樹木を切れば見えると思う。</p>
伊東(龍)委員長	貴重な意見だ。樹木は樹木で大事だという意見もあると思うが、今のようなご意見も取り入れて整備を進めることが大切だと考える。他に意見がなければ、次に進みたい。

次第3	報告
報告1	熊本城特別公開等について
伊東(龍)委員長	次に、報告1「熊本城特別公開等について」、事務局から説明をお願いする。
事務局	(資料2説明)
伊東(龍)委員長	「1)特別公開第2弾の実施状況について」の報告があった。委員から質問・意見等があれば発言をお願いする。
松田委員	まず、第2弾について、コロナ禍の中でアクセルとブレーキの塩梅が非常に難しかったと思う。入園者数についてだが、元々「これくらい」

	<p>と予測した数字と同等の数字なのか、それとも予測よりも多かったのか、あるいは少なかったのか。その辺りの評価を聞きたい。また、第3弾の天守閣公開は熊本市だけではなく、県全体の観光の目玉になると思う。我々も非常に期待している。その中で、熊本城の価値の向上という部分に、この委員会の場で議論されたことが多く盛り込まれていることは特にありがたく感じた。要望としては、各観光会社が来年4月～9月の上期の季刊パンフレットをちょうど作成しているところで、進捗としては最終段階まで来ている。今月中に情報やデータを各観光会社へ提供し、入園料の改定の可能性があるということも含めて、旅行会社に伝えてもらいたい。そして、12月の議会を通ったら、すみやかに変更内容を伝えていただければ、パンフレットの納品に間に合うのでお願いしたい。加えて、現在、3館共通券がある。県と市の立場もあると思うが、伝統工芸館や県立美術館など周辺に県の文化施設も多くあるので、回遊性の向上を考えると県と市を乗り越えた形で、具体的な連携ができればありがたい。今後の検討を希望する。</p>
事務局	<p>ただ今の3点について回答させていただく。まず、第2弾の入園者数の予測だが、概観については現在もそうだが、コロナ禍の問題もあり、明確な数字の予測は立てていなかった。最初に関しては、コロナ感染拡大防止の観点から1時間当たりの入園者制限というのを決めており、大体1時間200人で想定していた。1日8時間で、1日に約1600人が城内に入れる人数と想定していた。入園者総数の予測ということはない。次にパンフレット関連の情報を提供してほしいとのことだったが、こちらも決まり次第、観光サイドを通じて情報提供をしていきたい。さらに、県の美術館や伝統工芸館などとの連携に関しても、県と市の観光関係サイドと協力をしながら進めていきたい。今、松田委員ご指摘の通り、熊本城とわくわく座、熊本博物館3館の共通券は既にあるので、それを具体的に大きく持っていけるのかといった検討もできると思う。そういった形で県の施設とも連携が出来ればと思う。</p>
井上局長	<p>入園者数の見込みということであったが、参考までに月別1日平均入園者数を申し上げると、6月1日から第2弾を公開して、6月は1日平均で653人という数字だった。正直、もう少し来ていただけたのかなと考えていたが、やはりコロナの影響があったと考える。7月になると、ご存じのとおり、第2波が全国的に影響を及ぼし、また天候もよくなかったということもあり、1日平均434人という記録になった。8月になると非常に暑かったこと、またコロナの影響が続いてい</p>

	<p>たことから、1日平均526人。6・7・8月は非常に低調であった。9月に入ると、上旬は台風の接近があり、その影響で3日程熊本城も緊急に閉園した。その後は順調で9月の4連休の際には、9月21日に第2弾以降最高の4271人を記録した。9月の1日平均は922人で、一気に倍くらいの平均値になった。10月になるとGoToトラベルの影響とは思いますが、1日平均1376人と一気に増加した。11月は1日平均が2000人を超えている。10万人を突破するのに、約140日かかった。しかし、天候等にもよるがこのまま行くと次の20万人はこの夜間公開の際に達成できるのではと考えている。ただ、まだ第3波の影響もあり、こればかりは国の政策や天候、コロナの状況にもよって変動するので、我々としてもなかなか予想しづらい状況にある。あまり希望的な観測もよくないと考えている。今後の第3弾についても予測は立てていないが、状況を見極めながら対応していきたい。</p>
坂本委員	<p>私が聞いたかったことは、局長がお答えになったことそのままだ。この数字に対する評価と、それに対する原因分析についてどの様にお考えかお尋ねしたかったが、今お答えになった通りと理解した。ただ、予測はしないとは言いながら、目標というのはある程度、「これぐらいの数字を目標に頑張ろう」という方が良いのではないかな。それによって、今後観光業界と連携する際にも実質的な政策が立てられるのではないかな。もう少し、「この辺りに足りない部分があるからこの部分を改善すればもっと観光客が増えるかも」というような対策をとるためにもある程度の目標に向かっての実施と、それに対する原因の分析が必要だ。できなければ、できなかった原因の分析。できれば、何が良かったのか原因を分析するということが必要と考える。ただ、もう局長がお答えになったことで結構かと思う。</p>
伊東(龍)委員長	<p>他にご意見等あるか。</p>
服部委員	<p>刑部邸のライトアップの件について。私も去年訪れたが、刑部邸は開いていると思って行ったところ、まだ修理ができていないということで内部に入れなかった。あの建物は移築したとはいえ、江戸時代の建物なので、文化財的な価値は高いと思う。熊本城は重要文化財建造物を最優先で、復元建造物はその後と聞いているが、刑部邸自体は文化財として指定されているのか。指定されているのであれば、修理の順番はどうなるのかお聞きしたい。また、これは個人的な感想だが、カラーのライトアップが実施されていたが、自然光の方がなじむのではないかと感じた。最後は個人的な感想である。</p>
事務局	<p>刑部邸は、県指定の重要文化財建造物である。もちろん重要文化財の</p>

	方が優先順位は高い。よって刑部邸も優先順位の高いものとして修理を進めている。来年から建物自体の復旧設計に本格的に着手する。設計が完了次第、工事に入っていく。建物の復旧に当たっては耐震化を含めて、より強い構造にしていきたいと考えている。
服部委員	来年から修理に着手するということか。
事務局	来年から設計に着手する。それが終わってから工事に着手する。
西嶋委員	DX と ICT 活用と夜間開園についてお聞きしたい。今後 DX・ICT 活用が得られると、今回提示されているのは人数だけだが、属性やペルソナなど周辺の回遊行動も提示できる。先ほど刑部邸の話も出ていたが、私も昨年刑部邸を見に行った。あのようにライトアップされた場所をどのように繋いでいって、皆さんが楽しめるような形に発展させていくかも必要だと思う。そうすると GPS データなどで「どのような回遊をしているのか」という分析も出てくると思う。資料に「DX・ICT 活用をする」という記載があるが、入園者数がそういうものに伴って分析されて、様々な活用の方向が広がっていくことに期待している。その方向で段階的にでも構築していってもらいたい。最終的にはエビデンスに基づいた政策を展開するということが、相当重要だと思うので、今後しっかりと実行していってもらいたい。それから夜間開園やライトアップに関して熊本市の都市デザイン室の方で、夜間景観の総合的な検討を今年度から始められると聞いている。先ほど河島委員から街中から見える城の姿の話があったが、そちらの方とも連携をして、日没の状態では城がどう見えるかという時間軸でもチェックすることで、ライトアップの重要性がクローズアップされると思う。連携をしていただき、夜でも街からどう城が感じられるかをさらに検討してもらいたい。繰り返しになるが、夜間景観を楽しんでもらうためには、歩いて回っていただくということになると思う。どういう風にネットワークされたところを進んでいただくかという歩行空間が相当重要になってくる。その辺りも目配りをして、整備等に結び付けていただければと思う。
伊東(龍)委員長	確かにこのようなシステムができると、詳細な検討ができる。様々な計画にも結び付けることができると思うが、これについて事務局の方から何かあるか。
事務局	DX や ICT を今後活用していくに当たって、電子チケットや事前決済も導入していく。ご指摘のあった入園者数の分析や、いずれ入ってくる海外からの観光客の分析過程の構築などが出来ればと考えている。
西嶋委員	熊本城を手始めに、データの活用を横展開してもらいたい。「熊本城

	<p>はスマホでできるけれど、他はすべてアナログ。どうなっているの」ということになりかねない。先行して熊本城から始めるのであれば、部局を超えて県市、官民を超えて横展開をしていただくことで、また別のネットワークを作っていただくきっかけにしていきたい。</p>
伊東(龍)委員長	<p>それでは、次に毛利委員にお願いします。</p>
毛利委員	<p>特別公開第3弾の実施予定で「熊本観光の価値の向上」の中に「教育における利用の促進」が挙げられている。私は地域の子どもたちに熊本城に見て触れてもらうことを毎年実施している。今年の8月22日にはライトアップされた方の視点を中心に、城の外周を回った。熊本城の中に入らなかったが、地域の子どもたちが約50名参加して復旧状況・天守閣の復旧しつつある姿を子どもたちなりに受け取っていたようだ。それから、調査研究センター等の協力をいただき、10月11日の日曜日に第2弾の特別公開ルートを見学した。特に特別見学通路では子どもたちが二様の石垣や宇土櫓の修理が行われていない状況などを興味深く見ていた。これまでは小学5年生、6年生の参加者が多かったが、今年は1年生が非常に多く、小さな子どもたちも熊本城に興味をもっている。資料の「教育における利用の促進」の中に、「見学旅行、校外活動、写生大会など」とあるが、この下の「ウォークラリー・スタンプラリー」とは、お城まつりのチラシの中にある「ARウォークラリー」のことを指しているのか。あるいは、「スタンプラリー」はまた別に企画されているのか。熊本市内の子どもたち、小・中学生にできるだけ熊本城に来てもらいたいという想いから、こういうことを企画されていると思うが、地域の子どもたちに、どういう風に案内をしているのか。もっと紹介の仕方があれば、私たちもできるだけ協力させていただきたいと思う。この「ウォークラリー」と「スタンプラリー」について補足いただければと思う。</p>
事務局	<p>具体的に、どういった形でやるということを決めている訳ではない。今後検討していきたい。今回、秋のお城まつりで実施する「ARウォークラリー」や、今までお城まつりで行っていたスタンプラリーなども当然含まれると思う。いろんなやり方があるので、地域の皆様にもご意見を頂きながら、検討していきたい。引き続きよろしく願いしたい。</p>
山尾委員	<p>第3弾の公開ルートを見ると、2つのルートを同時に使うということになっているが、最大1時間当たり200人を目安にすると、両方から入園者が入ってくることになる。200人をどのようにカウントするのか。管理するのはかなり大変と思う。天守閣に上がるのもまた別料金</p>

	<p>になるのか、はっきり分からないが、天守閣に上がっていくとなると、多くの方が登閣を希望して時間もかかる気がする。その辺りの運用はしっかりと決めているのか。</p>
事務局	<p>6月1日から第2弾公開を開始した時に、コロナ禍の影響が全く分からないということで、1時間当たり200人という目安で制限をさせていただいた。現在は入園者数の状況や、感染防止対策が確立しているということで、入場整理券の配布は止めている。また、現在でも日祝は北ルートを開放しており、人数制限を設ける状況ではない。第3弾をどのような運営にするのかという点はまだ決めていない。</p>
山尾委員	<p>やはり、天守閣に登ることができるとなると、入園者数も変わってくると思う。入園者数が増えてくれることに期待をしているが、小天守も一緒に見ることができるとなれば、今まで以上の集客能力が熊本城にあるので、その辺りをどうするか検討しておいた方が良いのではないかと。ある意味、それが機能すれば一番良いと思う。是非宜しくお願ひしたい。</p>
山田委員	<p>松田委員にも発言があったように、県市を越えた連携、熊本城を中心とした周辺の文化施設を回遊できる仕組みを。このようなきっかけがないとお互いに踏み切れないのではないかと。大変難しいのは承知しているが、わくわく座と熊本博物館との共通券のようなものが、県市を越えた形であれば利用者にとっても一番良いと思う。できないにしても先ほどのスタンプラリーであれば、色々な文化施設を回るスタンプラリーなど、何か所か回ろうという気持ちになってもらえるような工夫があればいいと思う。県市連携はぜひ進めていただければと思う。私も色々な意見を受けてきて、感じていた。教育における利用の促進という所でも、大いに進めていただきたいと思う。秋の修学旅行シーズンは、前回も発言した通り、専ら南九州の子どもたちが来て、熊本城周辺エリアで色々な活動を行っている。市内県内の子どもたちは、今年は授業時間の問題で厳しく、修学旅行の様に来ることはできないが、そこをどのように働きかかると。せつかくこれだけ復旧して、天守閣の中もリニューアルしてオープンするので、来てもらえるような上手な仕掛けがあればいいと思う。料金について具体的な数字は出されていないが、基本的な話だが入園料の使い道について。今回改定の趣旨の中に「維持管理運営経費」との兼ね合いがある。これは復旧の問題と切り離して維持管理のみということだが、これについて、市民は優遇措置があるとか、小中学生は優遇措置とか、段階的な料金体系を今の所想定されているのか、その辺をうかがいたい。</p>

事務局	<p>県市の連携に関しては、壁は高いが熊本市も一生懸命行い、良い形にできればいいと思う。入園料に関して、優遇措置は熊本市内の小中学生は無料としていて、65歳以上の方も無料の優遇制度をとっている。今回、料金に関して段階的区分は今のところ考えていないが、あるとすれば高校生以上とか小学生とかの形になると思う。幾らの金額になるかまだ決まっていないので、他のサービス面でできるような仕組み作りも考えていきたい。</p>
事務局	<p>修学旅行の子どもたちのことで、前回委員会で「南九州の子どもたちにほぼ限られていた」と発言したが、今年は色々な学校の子どもたちに話を聞くと、福岡・佐賀・熊本県内など、実に鹿児島以外の子どもたちが来ていた。先生に伺うと、「熊本城だと話題性もあり、完全に屋外であるため、子どもたちを安全に見学させられるので、選びました」との声が多く、関東・関西も含めて結構色々な所から来ていただいている状況である。県市連携では、お城まつりの期間中に県立美術館や熊本博物館の開園時間の延長や、庭の木々のライトアップを一緒に実施する。保存活用委員会の中で、公開活用の意見を多く頂くことで、県市連携や周辺施設との連携は、今まで以上に前向きに取り組めるようになったと思う。</p>
山田委員	<p>コロナ禍の関係で今年は修学旅行で来る観光客は、少し変化しているのか。ぜひ定着できるようにしてもらいたい。</p>
廣瀬委員	<p>回遊性に関しては、例えば周囲には博物館・美術館・伝統工芸館がある。熊本城に「来よう」と思われる方は、結構皆さんホームページを見ていたり、インターネットを使ってまず計画を立てられると思う。できれば熊本城のホームページで、例えば「おすすめルートの紹介」など、周りにはこういう施設がありますと掲載してはどうか。個人的感想だが、熊本城に行った後にわくわく座に行くのはもったいないと感じる。どちらかと言えばわくわく座で知識を溜め込んだ状態で熊本城に行ったほうがより楽しめると思う。お城に行った帰りに情報を入れると、「あの場所を見ておけば良かった」ということになると思う。先にわくわく座なり博物館なりを見てからお城をすすめる。お城に関しては、例えば「おすすめルート1・2」といった情報発信の仕方があっていいのではないかと思う。皆さんご存知の通り、城ブームだと思うので、せっかくならそれに乗りたい。第3弾もそうだが、たくさん情報発信をすることが大事だと思う。先日は千田先生だったと思うが、テレビを見て県外からのお客様がたくさん来られるので、色々なことを活用した方が良い。例えばインスタ・ホームページなどもそう</p>

	<p>だが、メディアの活用をして、第3弾をアピールすることが来客数を増やすには重要と感じた。ウォークラリーとかスタンプラリーに関しては、「ワンピース」の銅像が着々とできていると思うので、そういったものの活用もよいのではないか。「ワンピース」に限っては、子どもに限らず大人のファンの方もいるし、子どもなら今は「鬼滅の刃」などを活用してほしい。なかなか難しいが、今流行りのものを活用することもいいのではないか。また、西嶋委員発言の「横のつながり」について、先日海外の方が交通手段でクレジットカードが使用できないことに驚かされていた。関係無いかもしれないが、横の連携ができればいいと思う。旅行をするなら最近はキャッシュレスなので、もし可能であればご検討いただきたい。</p>
事務局	<p>廣瀬委員の発言の中で観光ルートの話があった。来年度からの特別公開に向けて業務委託関係をホームページ上で募集している。その業務の中に、公開ルートで多様な観光ルートの設定を行ってほしいと入れているので、来年は観光ルートを作成した上で、ホームページに載せるといった業務が出来上がってくる。「ワンピース」の観光活用については、行政内の横の連携という形になる。先ほどスタンプラリーなどとか話があったが、そのような業務ができるかどうか検討できればと思う。</p>
河島委員	<p>山田委員の発言があったように、県立美術館や伝統工芸館との連携はぜひ必要だと思っている。県立美術館分館の県との話し合いもしていただきたいと思う。回遊性について言えば、二の丸から伝統工芸館に下りていくには棒庵坂があるが、高齢者の方が増えて観光客の回遊性を求めるなら、一部階段にしてもっと安全に昇り降りができる形にできないか。手すりについて、片方手すりのようで手すりでないようなものが付いている。回遊性が大事ならあの辺はもう少し改良されて、歩きやすい坂にしていきたい。</p>
報告 2	NHK 跡地の土地取得について
伊東(龍)委員長	次に、報告2「NHK跡地の土地取得について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料3説明)
伊東(龍)委員長	委員から質問・意見等があれば発言をお願いします。
委員	(発言なし)
報告 3	熊本城の復旧取組状況について
伊東(龍)委員長	次に、報告3「熊本城の復旧取組状況について」、事務局から説明をお願いします。

事務局	(資料4説明)
伊東(龍)委員長	委員から質問・意見等があれば発言をお願いします。
委員	(発言なし)

次第4	事務連絡
-----	------

次第5	閉会
-----	----